

雇主ニ對シ偽計
威力ヲ以テ妨害
ヲ爲シタル者ハ
亦前條ニ同シ
第二百七十二條
虛偽ノ風説ヲ流
布シテ穀類其他
衆人需用物品ノ
價値ヲ昂低セシ
メタル者ハ十圓
以上百圓以下ノ
罰金ニ處ス

○第三十六章乃至第四十章前註

第三十六章乃至第四十章ニ規定セル罪ハ主トシテ財産
保護ノ目的ナルカ故ニ之ヲ財産ニ對スル罪ト爲ス本罪
ハ其ノ手段ノ如何ニ依リ之ヲ九種ニ類別スルコトヲ得
第一 竊盜罪
第二 強盜罪
第三 詐欺取財ノ罪
第四 恐喝取財ノ罪
第五 背信加害罪
第六 横領ノ罪
第七 贓物ニ關スル罪

第一節 竊盜ノ罪

第三十六章 竊盜及ヒ強盜ノ罪

第八 毀棄罪
第九 隱匿罪

本章ハ舊法ニ於テ罪ヲ區別シ竊盜及ヒ強盜ト爲シ之ニ
付キ別異ノ節目ヲ設クルモ此二種ノ罪ハ元來其ノ性質
ヲ同フスルヲ以テ之ヲ一章ニ集ムルヲ便宜ナリトス故
ニ本法ハ此區別ヲ廢シ舊法第三編第二章第一節及ヒ
第二節ヲ合シ之ニ修正ヲ加ヘテ本章ノ規定ヲ設ケタル
モノナリ

修正ノ要旨ヲ舉グレハ左ノ如シ

第一 舊第三百六十七條乃至第三百七十條及ヒ第三百
七十二條乃至第三百七十四條ハ皆竊盜ノ情狀ニ因リ
設ケタル區別ニシテ毫モ實益ナキノミナラス却テ刑
ノ範圍ノ狹隘ヲ感シ不便少カラザルヲ以テ本法ハ斷
然斯ノ如キ煩雜ナル規定ヲ廢シ汎ク竊盜ニ關スル規
定ヲ設ケ其ノ情狀ハ裁判所ノ認定ニ之ヲ一任スルコ
トトセリ

第二 舊第三百七十九條モ亦前號ト同一ノ理由ニ因リ
之ヲ削除セリ

第三百六十六條
人ノ所有物ヲ竊
取シタル者ハ竊
盜ノ罪ト爲シ二
月以上四年以下
ノ重禁錮ニ處ス
第三百六十七條
水火震災其他ノ
變ニ乘シテ竊盜
ヲ犯シタル者ハ
六月以上五年以
下ノ重禁錮ニ處
ス

第三百六十八條
門戶牆壁ヲ踰越
損壞シ若シクハ
鎖鑰ヲ開キ邸宅
倉庫ニ入り竊盜
ヲ犯シタル者ハ
亦前條ニ同シ

第三百六十九條
二人以上共ニ前
三條ノ罪ヲ犯シ
タル者ハ各一等
ヲ加フ

第三百七十條
兇器ヲ携帯シテ人
ノ住居シタル邸

第三百三十五條 他
人ノ財物ヲ竊取シ
タル者ハ竊盜ノ罪
ト爲シ十年以下ノ
懲役ニ處ス

三七六
本條ハ舊第三百六十六條乃至第三百七十條及ヒ第三百
七十二條乃至第三百七十四條ノ規定ヲ合シ之ニ修正ヲ
加ヘタルモノニシテ竊盜罪ヲ規定セリ
舊第三百六十七條以下ノ規定ハ竊盜ノ情狀ニ因リ區別
ヲ設ケタルモノニシテ適用上徒ラニ混雜ヲ來タスノミ
ナラス爲メニ刑ノ範圍ヲ狹メ却テ不當ノ刑ヲ科スルノ
結果ヲ生スルヲ以テ本法ハ總テ此等ノ情狀ノ認定ヲ裁
判所ニ一任シ刑期ヲ廣クシテ適宜ノ刑ヲ科スルコトヲ
得セシメタリ又屋外竊盜ニ關シテハ明治二十三年法律
第九十九號ノ規程アリシモ是レ亦竊盜罪ニ過キサルヲ
以テ之ヲ本條中ニ包含セシメタリ
竊盜罪トハ他人ノ財物ヲ竊取スルヲ云フ此定義ヲ詳説
スレハ左ノ如シ
第一 財物ナルコト
財物トハ財産ヲ組成スル動産ト云フニ外ナラス故ニ
動産タルコト及ヒ財産タル價值ヲ有スルコトノ二條
件ヲ具備セサルヘカラス
動産トハ土地及ヒ其ノ定着物以外ノ物ヲ云フ而シテ
物ノ名稱ハ有體物ニ限ルカ故ニ單ニ動産ト稱スルモ

宅ニ入り竊盜ヲ
犯シタル者ハ輕
懲役ニ處ス
第三百七十一條
第三百七十二條
田野ニ於テ穀類
菜葉其他ノ產物
ヲ竊取シタル者
ハ一月以上一年
以下ノ重禁錮ニ
處ス
第三百七十三條
山林ニ於テ竹木
礦物其他ノ產物
ヲ竊取シ又ハ川
澤池沼湖海ニ於
テ人ノ生業ニ關ス
クハ營業ニ關ス
ル產物ヲ竊取シ
タル者ハ亦前條
ニ同シ
第三百七十四條
牧場ニ於テ牧畜
ノ獸類ヲ竊取シ
タル者ハ二月以
上二年以下ノ重

第三百六十一三三四條

三七七
有體動産ノ意ニ解スヘキヤ勿論ナリ(民法第八十五
條、第八十六條)
人ハ物ニ非サルヤ明カナリト雖トモ人工ヲ以テ身體
ヲ補充セルモノニシテ身體ヨリ分離シ得ル限リハ
(義足、義齒、入毛ノ如キ)之ヲ物ト稱スヘク若シ身
體ヲ補充セルモ身體ヨリ分離シ得サルトキハ(義鼻
ノ如キ)之ヲ身體ノ一部ト看做スヘシ之ニ反シ脫齒
脫毛ノ如キハ身體ノ一部ナルモ身體ヨリ脱落シタル
モノナルニ因リ之ヲ物ト云フヘク死體及ヒ死體ノ一
部モ亦物ナリ水、瓦斯、空氣ハ他人ノ專有シ居ルト
キニ限り物ト云フコトヲ得ヘシ電氣力、水力、蒸氣
力ハ一種ノ力ニシテ物ニ非スト雖トモ電氣ハ特ニ第
二百四十五條ヲ以テ財物ト見做サレタルカ故ニ物ナ
リ
第二 財物カ他人ノモノタルコト
他人ノモノトハ他人ノ所有ニ屬スルノ義ナリ故ニ何
人ノ所有ニモ屬セサル物ハ竊盜罪ノ目的物ト爲ルコ
トナシ例ヘハ無主物、遺棄物ノ如シ
所有者ハ自然人ナルト法人ナルト又私人ナルト國家

第三百三十五條

三七七

禁錮ニ處ス
第三百七十五條ハ
第三百四十三條
ニ對照

第三百七十六條
此節ニ記載シタ
ル罪ヲ犯シ輕罪
ノ刑ニ處スル者
ハ六月以上二年
以下ノ監視ニ附
ス
第三百七十七條ハ
第三百四十四條
ニ對照

第二節 強盜ノ罪

第三百七十八條
人ヲ脅迫シ又ハ
暴行ヲ加ヘテ財
物ヲ強取シタル
者ハ強盜ノ罪ト
爲シ輕懲役ニ處
ス
第三百七十九條
強盜左ニ記載シ
タル情狀アル者
ハ一個毎ニ一等
ヲ加フ
一 二人以上共
ニ犯シタル時
二 兇器ヲ携帯
シテ犯シタル

第三百七十五—三七九條

第二百三十六條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ

他人ノ財物ヲ強取
シタル者ハ強盜ノ
罪ト爲シ五年以上
ノ有期懲役ニ處ス
前項ノ方法ヲ以
テ財産上不法ノ利
益ヲ得又ハ他人ヲ
シテ之ヲ得セシメ
タル者亦同シ

第二百三十六條

三七九

三七八

ナルトヲ問ハサルナリ
自己ノ財物ト雖トモ他人ノ占有ニ屬シ又ハ公務所ノ
命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ之ヲ他人
ノ財物ト看做ス(第二百四十二條)

第三 竊取ノ行爲アルコト

竊取トハ竊カニ他人ノ所持内ヨリ自己ノ所持内ニ他
人ノ財物ヲ移スヲ云フ
所持トハ物ニ付テノ事實上ノ支配ヲ云ヒ他人ノ處分
權ヲ排除シテ犯人自ラ事實上物ヲ支配スルノ義ナリ
竊カニトハ他人ノ知ラサル方法ニ依ルノ意ニ非ス
暴行脅迫ヲ爲サスシテ他人ノ意ニ反スルノ義ナリ故
ニ所有者ノ承諾ヲ得タルトキハ竊盜ニ非ス

第四 故意ヲ以テスルコト

財物ノ他人ニ屬シ且其ノ意ニ反スルコトヲ知リ自己
ノ所持内ニ移スノ意思アルトキハ之ヲ竊盜ノ故意ア
リト云フ故ニ自己ノ財物ナリト誤認シ又ハ所有者ノ
意ニ反セサルモノト誤認シタルトキハ自己ノ所持内
ニ移スノ意思アルモ竊盜ノ故意アリト云フヲ得ス又
他人ノ財物タルコト及ヒ其ノ意ニ反スルコトヲ知ル

モ自己ノ所持内ニ移スノ意思ナキトキハ竊盜ニ非ス
例ヘハ所有者ノ飼養セル獸畜ヲ放チテ之ヲ失ハシメ
タル如シ

刑ハ十年以下ノ懲役トス尤モ親族間ニ於テハ其ノ刑ヲ
免除セラレ又ハ親告罪トセリ(第二百四十四條)

本條ハ強盜罪ヲ規定シタルモノニシテ第一項ハ舊第三
百七十八條ノ字句ヲ修正シタルニ過キス其趣旨ヲ同フ
セリ第二項ハ新ニ設ケタル規定ナリ即チ強盜ノ場合ニ
於テハ竊盜ト異ナリ單ニ財物ヲ強取スルノミナラス其
他ノ財産上ノ利益ヲモ取得スル場合アルヲ以テ之ヲ規
定シタルモノナリ

強盜罪ト竊盜罪ト異ナル所ハ其ノ手段カ暴行又ハ脅迫
タルノ點ニ存ス

暴行、脅迫ノ意義ニ付テハ左ノ事項ニ注意スルコトヲ
要ス

第一 暴行ハ強取スヘキ財物ノ事實上ノ所持人ニ對ス
ルコトヲ要ス故ニ物ニ付テノ暴行(時計ノ鎖ヲ切リ
取り、馬ヲ止ムル等)又ハ財物ノ事實上ノ所持人以
外ノ者ニ對スル暴行(財物ヲ引渡サシムル爲メ愛見

時
第三百八十條ハ第
二百四十條ニ對
照
第三百八十一條ハ
第三百四十一條
ニ對照

第三百八十二條
竊盜罪ヲ得テ其
取還ヲ拒グ爲メ
臨時暴行脅迫ヲ
爲シタル者ハ強
盜ヲ以テ論ス

第三百八十三條
藥酒等ヲ用ヒ人
ヲ昏迷セシメ其

第三百八〇—三八三條

ニ對シ暴行ヲ加フル如シ)ニテハ十分ナラス
第二 脅迫ハ現ニ被害者又ハ被害者ニ於テ救護スヘキ
者ノ生命、身體、自由若クハ財産ニ對シ危害ヲ加ヘ
ントスルニ在ルコトヲ要ス
刑ハ三年以上ノ懲役トス
左ノ場合ニ於テハ之ヲ準強盜罪トス
第一 暴行又ハ脅迫ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ
他人ヲシテ之ヲ得セシメタル場合(本條第二項)
不法ノ利益トハ犯人カ法律上請求權ヲ有セサル利益
ヲ云フ

第二 竊盜カ財物ヲ得テ其ノ取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免
レ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタ
ル場合(第二百二十八條)

第三 人ヲ昏迷セシメテ其財物ヲ盜取シタル場合(第
二百二十九條)
又左ノ場合ニ於テハ重キ強盜罪成立ス
第一 強盜カ人ヲ傷シ又ハ死ニ致シタル場合(第二十
四條)

第二 強盜カ婦女ヲ強姦シタル場合(第二百四十二條)

第二百三十七條 強
盜ノ目的ヲ以テ其
豫備ヲ爲シタル者
ハ二年以下ノ懲役
ニ處ス

第二百三十八條 竊
盜財物ヲ得テ其取
還ヲ拒キ又ハ逮捕
ヲ免レ若クハ罪跡
ヲ湮滅スル爲メ暴
行又ハ脅迫ヲ爲シ
タルトキハ強盜ヲ
以テ論ス

第二百三十九條 人
ヲ昏迷セシメテ其

第三百八〇—三八三條

第二百三十七—二百三十九條

本條ハ新ニ設ケタル所ニシテ強盜罪ノ豫備ヲ罰スル規
定ナリ其ノ理由ハ第三百十三條及ヒ第二百一一條ニ同シ

本條ハ舊第三百八十二條ニ少シク修正ヲ加ヘタルモノ
ニシテ竊盜カ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル場合ニ強盜ヲ以
テ論スルコトヲ規定セリ
其ノ趣旨ハ異ナルニ非ス唯舊法ハ財物取還ヲ拒グ場合
ノミヲ規定スルモ本條ハ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ湮滅
スル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル場合ヲ補正セリ故ニ
竊盜カ左ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲ストキハ強盜
ヲ以テ論スルモノトス

第一 財物ヲ得テ其ノ取還ヲ拒グキ
第二 逮捕ヲ免ルル爲メナルトキ
第三 罪跡ヲ湮滅スル爲メナルトキ
本條ハ舊第三百八十三條ニ同シク昏迷セシメテ財物ヲ
盜取シタル者ヲ強盜ヲ以テ論スルコトヲ規定セリ

財物ヲ盜取シタル者ハ強盜ヲ以テ論シ輕懲役ニ處ス

第三百八十條 強盜人ヲ傷シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス

財物ヲ盜取シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス

第二百四十條 強盜人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第三百八十一條 強盜婦女ヲ強姦シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第二百四十一條 強盜婦女ヲ強姦シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死

舊法ハ人ヲ昏醉セシムル方法ヲ例示スルモ本法ハ之ヲ必要ナラスト認メ削除セリ

本條ハ舊第三百八十條ニ同シク強盜人ヲ傷シ又ハ死ニ致シタル場合ヲ規定セリ

本條ハ舊第三百八十一條ニ同シク強盜婦女ヲ強姦シタル場合ノ規定ニシテ因テ死ニ致シタル場合ニハ特ニ刑ヲ重クスルノ必要アルヲ以テ後段ニ其ノ規定ヲ設ケタリ

ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第三百七十一條 自己ノ所有物トシテ雖モ典物トシテ他人ニ交付シテハ官署ノ命令ニ因リ他人ノ看守シタル時之ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論ス

第二百四十二條 自己ノ財物ト雖モ他人ノ占有ニ屬シ又ハ公務所ノ命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ

本章ノ罪ニ付テハ他人ノ財物ト看做ス

第三百七十五條

此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サン下シテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯

第二百四十三條 第

二百三十五條 第

二百三十六條 第

本條ハ強竊盜ノ未遂罪ヲ罰スル規定ナリ

本條ハ舊第三百七十一條ニ相當スルモノニシテ自己ノ財物ト雖トモ他人ノ財物ト看做ス場合ヲ規定セリ然レトモ其ノ意義ハ異ナル所アリ即チ他人ノ占有ヲ犯ス場合ハ占有セラレタル物カ自己ノ所有ニ屬スルトキト雖トモ其ノ方法如何ニ依リ竊盜又ハ強盜罪ヲ構成スヘキモノトセリ

棄シ若クハ分散
決定ノ後債主中
ノ一人又ハ數人
ニ其債ヲ私償
シテ他ノ債主ヲ
害シタル者ハ一
月以上二年以下
ノ重禁錮ニ處ス

第五節 詐欺及ヒ恐喝ノ罪
及ヒ寄附物受取
罪ニ關スル

第二百四十五條 本章ノ罪ニ付テハ電氣ハ之ヲ財物ト看做ス

第三十七章

詐欺及ヒ恐喝ノ罪

本條ハ新ニ設ケタル所ニシテ電氣ヲ財物ト看做ス旨ノ規定ナリ
電氣ハ一種ノ力ニシテ物ニ非サルカ故ニ電氣ニ付テハ強窃盜ヲ以テ論スルコト能ハサルニ至ル故ニ本條ヲ以テ之ヲ規定セリ
本章ハ舊法第五節中詐欺取財ニ關スル規定ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ
修正ノ要旨ヲ與ケレハ左ノ如シ
第一 舊法ハ欺罔取財ト恐喝取財ヲ同一ノ條ニ規定スルモノニ其ノ性質ヲ同フセサルヲ以テ本法ハ之ヲ別條トセリ
第二 舊第三百九十二條及ヒ第三百九十五條末段ノ規定ハ他ノ規定ニ包含セラルルヲ以テ之ヲ削除セリ

第三百九十九條 人
ヲ欺罔シテ財物若クハ
ハ證書類ヲ騙取
シタル者ハ詐欺
取財ノ罪ト爲シ
二月以上四年以
下ノ重禁錮ニ處
シ四圓以上四十
圓以下ノ罰金ヲ
附加ス
因テ官私ノ文書
ヲ偽造シ又ハ増
減變換シタル者
ハ偽造ノ各本條
ニ照シ重キニ從
テ處斷ス
第三百九十九條ハ第
二百四十九條ニ
モ對照セリ

第二百四十六條 人
ヲ欺罔シテ財物ヲ
騙取シタル者ハ十
年以下ノ懲役ニ處
ス
前項ノ方法ヲ以テ
財産上不法ノ利益
ヲ得又ハ他人ヲシ
テ之ヲ得セシメタ
ル者亦同シ

本條ハ舊第三百九十九條中人ヲ欺罔シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル罪ノ規定ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ
修正ノ要旨ヲ舉ケレハ舊法ハ財物若クハ證書類ヲ以テ本罪ノ目的物ト爲スモ其ノ意義不明ニシテ且ツ狹キニ失スルカ故ニ本法ニ於テハ第一項ヲ以テ財物ニ關スル規定ヲ設ケ第二項ヲ以テ其他ノ財産上ノ利益ニ關スル規定ヲ設ケタリ
詐欺取財ノ罪ノ成立要素ハ左ノ如シ
第一 人ヲ欺罔スルコト
欺罔トハ犯人カ人ヲ錯誤ニ陥ラシメ之ヲ利用スルコトヲ云フ
第二 財物ヲ騙取スルコト
財物ノ意義ハ窃盜ト同一ナルヲ以テ第二百三十五條ノ說明ヲ參看セヨ
騙取ハ被害者カ錯誤ニ陥リタル結果承諾ヲ得テ持去ルノ義ナリ財物ヲ騙取セサルモ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタルトキ亦同シ
第三 故意ヲ以テスルコト
刑ハ十年以下ノ懲役トス

第三百九十一條
幼者ノ知慮淺薄
又ハ人ノ精神錯
亂シタルニ乘シ

第二百四十七條 他
人ノ爲メ其事務ヲ
處理スル者自己若
クハ第三者ノ利益
ヲ圖リ又ハ本人ニ
損害ヲ加フル目的
ヲ以テ其任務ニ背
キタル行爲ヲ爲シ
本人ニ財産上ノ損
害ヲ加ヘタルトキ
ハ五年以下ノ懲役
又ハ千圓以下ノ罰
金ニ處ス

第二百四十八條 未
成年者ノ知慮淺薄
又ハ人ノ心神耗弱

本條ハ新ニ設ケタル所ニシテ背信加害罪ヲ規定セリ
他人ノ爲メ其ノ事務ヲ處理スル者例ヘハ後見人ノ如キ
ハ往々私利ヲ營ミ其他任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人
ニ損害ヲ加フルコトアリ此等ノ場合ニ於テハ理論上民
事訴訟ニ依リ損害賠償ヲ求ムル途ナキニアラスト雖ト
モ事實上ハ概ネ其ノ救済ナキト同一ニ歸ス加之該行爲
ノ治安ヲ害スルコト敢テ本章及ヒ次章ニ於テ規定スル
罪ニ讓ラス故ニ特ニ本條ヲ設ケ其ノ弊ヲ防止センコト
ヲ目的トス
背信加害罪ノ成立要素ハ左ノ如シ
第一 犯人ハ他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者ナルコト
第二 自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害
ヲ加フル目的アルコト
第三 任務ニ背キタル行爲ヲ爲スコト
第四 本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルコト
刑ハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金トス
本條ハ舊第三百九十一條ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ
人ノ低能ヲ利用スル詐欺罪ヲ規定セリ
舊法ハ未成年者ノ外精神錯亂者ノ規定ヲ設ケタルモ此場

テ其財物若クハ
證書類ヲ授與セ
シメタル者ハ詐
僞取財ヲ以テ論
ス

ニ乘シテ其財物ヲ
交付セシメ又ハ財
産上不法ノ利益ヲ
得若クハ他人ヲシ
テ之ヲ得セシメタ
ル者ハ十年以下ノ
懲役ニ處ス

第三百九十條 人
ヲ欺罔シ又ハ恐
喝シテ財物若クハ
ハ證書類ヲ騙取
シタル者ハ詐欺
取財ノ罪ト爲シ
二月以上四年以
下ノ重禁錮ニ處

第二百四十九條 人
ヲ恐喝シテ財物ヲ
交付セシメタル者
ハ十年以下ノ懲役
ニ處ス

第三百九二條

第二百四十七—二百四十九條

合ハ竊盜若クハ詐欺取財ニ該當スルヲ以テ本條ハ之ヲ
削除シ又第二百四十六條ニ同シク財産上ノ利益ニ關ス
ル規定ヲ加ヘタリ舊法ハ本條ノ場合ヲ以テ一ノ詐欺取
財ト爲スモ本條ノ罪ト第二百四十六條ノ罪トハ其ノ性
質同一ナラサルヲ以テ本條ニ於テハ別條トシテ之ヲ規
定セリ
本罪ノ成立ニハ未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱
ニ乘シテ左ニ掲ケタル行爲ヲ爲シタルコトヲ必要トス
第一 財物ヲ交付セシメタルコト
第二 財産上不法ノ利益ヲ得タルコト
第三 他人ヲシテ財産上不法ノ利益ヲ得セシメタルコ
ト
刑ハ十年以下ノ懲役トス
本條ハ舊第三百九十條中恐喝取財ノ罪ニ該當スル規定
ナリ
本條ニ於テモ第三百四十六條ニ同シク第一項ヲ以テ財
物ニ關スル規定ヲ設ケ第二項ヲ以テ其他ノ財産上ノ利
益ニ關スル規定ヲ設ケタリ

シ四圍以上四十
圓以下ノ罰金ヲ
附加ス
因テ官私ノ文書
ヲ偽造シタル者
減變換シタル者
ハ偽造ノ各本條
ニ照シ重キニ從
テ處斷ス
第三百九十七條
此節ニ記載シタ
ル罪ヲ犯サント
シテ未ダ遂ケサ
ル者ハ未遂犯罪
ノ例ニ照シテ處
斷ス

第三百九十八條
此節ニ記載シタ
ル罪ヲ犯シタル
者第三百七十七
條ニ掲ケタル親
屬ニ係ル時ハ其
罪ヲ論セス

前項ノ方法ヲ以テ
財産上不法ノ利益
ヲ得又ハ他人ヲシ
テ之ヲ得セシメタ
ル者亦同シ
第二百五十條 本章
ノ未遂罪ハ之ヲ罰
ス

第二百五十一條 本
章ノ罪ニハ第二百
四十二條、第二百
四十四條及ヒ第二
百四十五條ノ規定
ヲ準用ス

本條ハ詐欺罪及ヒ恐喝罪ノ未遂ヲ罰スル規定ナリ

本條ハ詐欺罪及ヒ恐喝罪ニ付テモ第二百四十二條、第
二百四十四條及ヒ第二百四十五條ノ例ニ從フヘキコト
ヲ明ニシタルモノナリ即チ左ノ如シ
第一 自己ノ財物ト雖トモ他人ノ占有ニ屬シ又ハ公務
所ノ命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ他人
ノ財物ト看做ス
第二 親族間ニ於テ犯シタルトキハ
(一) 直系血族、配偶者及ヒ同居ノ親族又ハ家族間
ニテハ刑ヲ免除シ

第三百九十二條
物件ヲ販賣シ又
ハ交換スルニ當
リ其物質ヲ變シ
若クハ分量ヲ偽
テ人ニ交付シタ
ル者ハ詐欺取財
ヲ以テ論ス
第三百九十三條
他人ノ動産不
動産ヲ冒認シテ
賣換シ又ハ抵
賣交換シタル者
當典物ト爲シタ
ル者ハ詐欺取財
ヲ以テ論ス
自己ノ不動産ト
雖モ己ニ抵當典
物ト爲シタル者
隱シテ他人ニ賣
與シ又ハ重テ抵
當典物ト爲シタ
ル者亦同シ
第三百九十四條
前數條ニ記載シ
タル罪ヲ犯シタ
ル者ハ六月以上
二年以下ノ監視
ニ附ス

(二) 其他ノ親族又ハ家族間ニテハ親告罪トス

第三十八章 横領ノ罪

本章ハ舊法第三編第二章第三節遺失物埋藏物ニ關スル罪ノ規定ニ第五節中ノ受寄財物ノ罪ノ規定ヲ合シ之ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ

修正ノ要旨ヲ擧グレハ左ノ如シ

第一 舊法ニ依レハ受寄財物ヲ費消スルカ又ハ騙取、拐帶等ノ行爲ヲ爲スニ非サレハ罪トナラサルヲ以テ單ニ受寄ノ財物ヲ自己ノ物ト爲シタル場合ニハ何等ノ罪ヲモ構成セス故ニ此場合ニ於テハ被害者ハ民事上ノ救濟ヲ求ムルノ外ナク其ノ保護極メテ薄弱ナリシヲ以テ本法ハ之ヲ改メ費消又ハ拐帶スルニ至ラサルモ既ニ横領ノ行爲アリタル場合ニハ之ヲ罪ト爲スコトトシ因テ此弊害ヲ濟ヘリ

第二 舊法ニ於テハ受寄財物ニ關シ業務上他人ノ爲メニ占有スル場合ト否ラサル場合トヲ區別セサルモ業務ニ因リ他人ノ爲メニ物ヲ占有スル場合ハ通常ノ場合ト異ナリ自ラ保管ノ責アルノミナラス一方ニハ交通取引ヲ妨ケ社會ノ信用ヲ害スルコト大ナリ故ニ本法ハ此二者ヲ區別シ各別ニ之ヲ規定セリ

本條第一項ハ舊法第三百九十五條ニ修正ヲ加ヘタルモノ

第三百九十五條

第二百五十二條 自

受寄ノ財物借用物又ハ典物其他委託ヲ受ケタル金額物件ヲ費消シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス若シ騙取拐帶其他詐欺ノ所爲アル者ハ詐欺取財ナルヲ以テ論ス

第三百九十六條 自己ノ所有ニ係ルト雖モ官署ヨリ差押ヘタル物件ヲ藏匿脱漏シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス但家資分散ノ際此罪ヲ犯シタル者ハ第三百八十八條ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百九十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサ

己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス
自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ横領シタル者亦同シ

ニシテ他人ノ爲メ占有スル物ヲ不法ニ横領シタル場合ヲ規定セリ但舊法第三百九十五條末段ノ規定ハ其ノ必要ナキヲ以テ之ヲ削除セリ又第二項ハ舊法第三百九十六條ニ相當スルモノナリ

横領罪ノ成立要素ハ左ノ如シ
第一 目的物カ動産ナルコト
第二 物カ他人ノ所有ニ屬スルコト
自己ノ物ト雖トモ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テハ之ヲ他人ノ物ト同視ス(第二項)
舊法第三百九十六條但書ハ其ノ必要ナキヲ以テ削除セリ

第二百五十二條

第三 他人ノ動産ヲ其者ノ爲メニ占有スルコト
犯人カ物ヲ從來ノ占有者ノ錯誤ニ因リテ得タルト偶成の事實ニ因リテ得タルトチ問ハス前者ノ爲メニ占有スルコトヲ必要トス

第四 横領ノ行爲アルコト
横領ハ不法ニ自己ノモノト爲ス意思ヲ以テ所有者ト同一ノ權利ヲ實行スルヲ云フ
舊法ハ官署ヨリ差押ヲ受ケタル自己ノ所有物ヲ藏匿又

ル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス
第三百九十七條ハ
第三百五十條ニ
モ對照セリ

第二百八十九條
官吏自ラ監守スル所ノ金穀物件ヲ竊取シタル者ハ輕懲役ニ處ス
因テ官ノ文書簿冊ヲ増減變換シ又ハ毀棄シタル時ハ第二十五條ノ例ニ照シテ處斷ス
第二百九十一條
此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スルモノハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第二百五十三條 業
務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ橫領シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

ハ脫漏シタル場合ヲ規定セルモ藏匿又ハ脫漏ナル語ハ其ノ意義狹キコト恰モ費消、拐帶ノ語ニ同シキヲ以テ本法ハ之ヲ改メ橫領ト爲シ其他文字ニ修正ヲ加ヘ意義ヲ明確ナラシメタリ
刑ハ五年以下ノ懲役トス
本條ハ新ニ設ケタル所ニシテ業務上他人ノ物ヲ占有スル者カ其ノ物ヲ橫領スル罪ヲ規定セリ
本條ノ場合ニ於テハ其ノ罪狀重キヲ以テ特ニ其ノ刑ヲ重クセリ舊第二百八十九條ノ所謂監守盜ノ如キハ當然本條中ニ包含セラル

第三節 遺失物
埋藏物
ニ關ス

第三百八十五條
遺失及ヒ漂流ノ物品ヲ拾得シテ隱匿シ所有主ニ還付セス又ハ官署ニ申告セサル者ハ十一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
第三百八十六條
他人ノ所有地内ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘得テ隱匿シタル者ハ亦前條ニ同シ
第三百九十八條
此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者第三百七十七條

第二百五十四條 遺失物、漂流物其他占有ヲ離レタル他人ノ物ヲ橫領シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

本條ハ舊第三百八十五條及ヒ第三百八十六條ヲ合シ之ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ遺失物、漂流物其他占有ヲ離レタル物ノ橫領罪ヲ規定セリ
舊法ハ遺失物、漂流物及ヒ埋藏物ニ付テノミ規定スルモ本法ハ汎ク他人ノ占有ヲ離レタル物ヲ橫領シタル場合ヲ規定セリ

第二百五十五條 本章ノ罪ニハ第二百四十四條ノ規定ヲ

本條ハ舊第三百八十七條ニ同シク橫領罪カ親族間ニ於テハ免刑原因ト爲リ又ハ親告罪ト爲ルコトヲ規定セリ

條ニ掲ケタル親
屬ニ係ル時ハ其
罪ヲ論セス
第三百九十八條ハ
第三百五十一條
ニモ對照セリ
第三百八十七條
此節ニ記載シタ
ル罪ヲ犯シタル
者第三百七十七
條ニ掲ケタル親
屬ニ係ル時ハ其
罪ヲ論セス

第六節
贓物ニ
關スル
罪

第三百九十九條
強竊盜ノ贓物ナ
ルコトヲ知テ之
ヲ受ケ又ハ寄藏
故賣シ若クハ牙
保ヲ爲シタル者
ハ一月以上三年

準用ス

第三十九章

贓物ニ關ス
ル罪

第二百五十六條 贓
物ヲ收受シタル者
ハ三年以下ノ懲役
ニ處ス

本章ハ舊法第三編第二章第六節贓物ニ關スル罪ノ規定
ニ少シク修正ヲ加ヘタルモノナリ

本條ハ舊第三百九十九條及ヒ第四百條ヲ合シ少シク之
ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ贓物ノ收受、運搬、寄藏、
故買又ハ牙保ヲ爲ス罪ヲ規定セリ
贓物ハ犯罪ニ因リテ得タル物ノ義ナリ舊法ハ強竊盜ノ
贓物ト其ノ他ノ罪ニ關スル物件トヲ區別シ刑ヲ異ニス

以下ノ重禁錮ニ
處シ三圓以上三
十圓以下ノ罰金
ヲ附加ス
第四百條 前條ノ
罪ヲ犯シタル者
ハ六月以上二年
以下ノ監視ニ付
ス
第四百一條 詐欺
取財其他ノ犯罪
ニ關シタル物件
ナルコトヲ知テ
之ヲ受ケ又ハ寄
藏故買シ若クハ
牙保ヲ爲シタル
者ハ一年以上十
年以下ノ重禁錮
ニ處シ二圓以
上二十圓以下ノ
罰金ヲ附加ス
第四百二條 第四
百四條ハ第二百
八條ニ對照
第四百三條 第
四百十五條ハ第
四百十六條ニ對
第四百十六條ニ對

贓物ノ運搬、寄藏、
故買又ハ牙保ヲ爲
シタル者ハ十年以
下ノ懲役及ヒ千圓
以下ノ罰金ニ處ス

- ルモ本法ハ其ノ必要ナシト認メ之ヲ合シ總テノ罪ニ關
スル贓物ニ付キ同一ノ規定ヲ設ケタリ
- 贓物ニ關スル罪ノ成立ニハ其ノ贓物タルコトヲ知ルコ
トヲ要スルヤ論ヲ俟タス
- 贓物ニ關シ左ノ行爲ヲ爲シタルトキハ之ヲ罰ス
- 第一 贓物ヲ收受シタルトキ
- 收受トハ贓物ヲ無償ニテ受クルヲ云フ
- 第二 贓物ヲ運搬シタルトキ
- 第三 贓物ヲ寄藏シタルトキ
- 寄藏トハ寄託ヲ受ケテ藏匿スルヲ云フ
- 第四 贓物ヲ故買シタルトキ
- 故買トハ贓物ヲ有償ニテ受クルヲ云フ
- 第五 贓物ノ牙保ヲ爲シタルトキ
- 牙保トハ讓渡ノ周旋ヲ爲スヲ云フ
- 單ニ贓物ヲ收受シタル者ト運搬、寄藏、故買又ハ牙保
ヲ爲シタル者トハ其ノ罪狀大ニ異ナル所アルヲ以テ之
ヲ區別シ其ノ刑ヲ異ニセリ即チ第一項ニ於テハ贓物ヲ
收受シタル罪ニ三年以下ノ懲役ヲ科シ第二項ニ於テハ
贓物ノ運搬、寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタル罪ニ十年

第二百五十七條 直

系血族、配偶者、同居ノ親族又ハ家族及ヒ此等ノ者ノ配偶者ノ間ニ於テ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除ス親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用キス

第四十章 毀

棄及ヒ隱匿ノ罪

以下ノ懲役及ヒ千圓以下ノ罰金ヲ科スルコトセリ
本條ハ新ニ設ケタル所ニシテ直系血族、配偶者又ハ同居ノ親族若クハ家族及ヒ此等ノ者ノ配偶者ノ間ニ於テ贓物ニ關スル罪ヲ犯ストキハ其ノ刑ヲ免除スルコトトセリ是レ其ノ情狀ニ於テ頗ル宥恕スヘキモノアルニ因ル

本章ハ舊法第三編第二章第十節家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪ノ規定ニ少シク修正ヲ加ヘタルモノナリ
修正ノ要旨ヲ舉グレハ左ノ如シ
第一 舊法ハ官文書ノ毀棄ニ關スル規定ヲ官文書偽造

第二百二條第二項
其認書ヲ毀棄シタル者亦同シ
第二百三條第二項

第二百五十八條 公

務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル

罪中ニ置キタルモ其ノ罪質全ク偽造罪ト異ナリ規定ノ場所其ノ宜シキヲ得サルヲ以テ本法ハ之ヲ本章ニ移シ汎ク公務所ノ用ニ供スル文書ノ毀棄ニ關スル規定ヲ設ケタリ
第二 舊法ニハ自己ノ物ト雖トモ差押ヲ受ケ又ハ物權若クハ賃貸借契約ノ目的物ト爲リタル場合ニ於テ其ノ物ヲ毀棄シタル行爲ニ關スル規定ヲ缺クヲ以テ本法ハ之ヲ補正シ其ノ規定ヲ設ケタリ
第三 信書ノ隱匿ニ關スル罪ハ其ノ必要アルヲ以テ之ヲ新ニ本章ニ規定セリ
毀棄罪ハ不法ニ物ノ本質ヲ毀損シテ其效用ヲ害シ若クハ之ヲ失ハシムル行爲ヲ云フ
本法ハ目的物ニ依リテ其ノ行爲ノ名稱ヲ異ニス即チ文書ニ在リテハ毀棄ト云ヒ其他ノ物ニ在リテハ損壞又ハ傷害ノ語ヲ用ユルモノ本質ヲ害シテ其ノ效用ヲ減シ若クハ之ヲ失ハシムルノ意ニ於テハ同一ナリ
本條ハ舊法第二百二條、第二百三條及ヒ第二百五條各第二項ノ規定ノ趣旨ヲ擴張シ官文書ノミナラス汎ク公務所ノ用ニ供スル文書ノ毀棄罪ヲ規定セリ

其官ノ文書ヲ毀棄シタル者亦同

第二百五九條

其文書ヲ毀棄シタル者亦同

タル者亦同

ニ記載シタル罪

テ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以

上二年以下ノ監

視ニ附ス

第四百二十四條

人ノ權利義務ニ

關スル證書類ヲ

毀滅シタル者ハ

二年以下ノ重禁

錮ニ處シ三月以

上ノ重禁錮ニ處

スル者ハ六月以

上二年以下ノ監

視ニ附ス

第四百十七條

ノ家屋其他ノ建

造物ヲ毀壞シタ

ル者ハ一月以上

五年以下ノ重禁

錮ニ處ス

第四百十八條

ノ家屋ニ屬スル

裝飾及ヒ田圃ノ

柵圍牧場ノ柵欄

ヲ毀壞シタル者

ハ十一月以上三

月以下ノ重禁錮

ニ處シ又ハ二月

以上二十圓以下

ノ罰金ニ處ス

第四百十九條

ノ家屋其他ノ建

造物ヲ毀壞シタ

ル者ハ六月以上

一年以下ノ重禁

錮ニ處シ又ハ三

月以上二十圓以

上ノ罰金ニ處ス

第四百一七―四一九條

第二百五十九條 權

利、義務ニ關スル

他人ノ文書ヲ毀棄

シタル者ハ五年以

下ノ懲役ニ處ス

第二百六十條 他人

ノ建造物又ハ艦船

ヲ損壞シタル者ハ

五年以下ノ懲役ニ

處ス因テ人ヲ死傷

ニ致シタル者ハ傷

害ノ罪ニ比較シ重

キニ從テ處斷ス

第二百六十一條 前

三條ニ記載シタル

以外ノ物ヲ損壞又

ハ傷害シタル者ハ

三年以下ノ懲役又

ハ五百圓以下ノ罰

金若クハ科料ニ處

ス

本條ハ舊第四百二十四條ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ

私文書ノ毀棄罪ヲ規定セリ

私文書ト雖トモ權利、義務ニ關セサルモノハ之ヲ毀棄

スルモ第二百六十一條ノ罪ト爲リ本條ノ罪ト爲ラス

本條ハ舊第四百十七條ニ同シク他人ノ建造物又ハ艦船

ヲ損壞スル罪ヲ規定シ又此ノ罪ヲ犯スニ因リテ人ヲ死

傷ニ致シタル者ヲ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從ヒ處斷ス

ルコトヲ規定セリ

本條ハ舊第四百十八條乃至第四百二十三條ヲ合シ之ニ

修正ヲ加ヘタルモノニシテ文書、建造物、艦船以外ノ

物ノ損壞又ハ傷害ノ罪ヲ規定セリ

舊法ハ此數箇條ニ於テ財物ノ種類ニ依リ刑ノ區別ヲ設

ケタルモ是レ犯行ノ情狀ニ過キサルヲ以テ本法ハ汎ク

前三條ニ記載シタル以外ノ物ノ損壞又ハ傷害ニ關スル

規定ヲ設ケ裁判所ヲシテ情狀ニ因リ適宜ノ刑ヲ科セシ

第四百一七―二百六十一條

第四百二十二條
 金ニ處ス
 地ノ經界ヲ表シ
 タル物件ヲ毀壞
 シタル者ハ一月
 以上六月以下ノ
 重禁錮ニ處シ
 六月以上一年以
 上ノ重禁錮ニ處
 シタル者ハ一年
 以上六月以下ノ
 重禁錮ニ處シ
 又ハ三圓以上三
 十圓以下ノ罰金
 ニ處ス
 第四百二十三條
 人ノ牛馬ヲ殺シ
 タル者ハ一月以
 上六月以下ノ重
 禁錮ニ處シ二月
 以上六月以下ノ
 罰金ヲ附加ス
 第四百二十四條
 人ノ器物ヲ毀棄
 シタル者ハ一月
 以上六月以下ノ
 重禁錮ニ處シ
 又ハ三圓以上三
 十圓以下ノ罰金
 ニ處ス
 第四百二十五條
 前條ニ記載シタ
 ル以外ノ家畜ヲ

殺シタル者ハ二
 圓以上二十圓以
 下ノ罰金ニ處ス
 但被害者ノ告訴
 ナ待テ其罪ヲ論
 ス
 第四百二十四條ハ
 第四百二十五條
 ニ對照

第四百〇一四二四條

第二百六十二條 自
 己ノ物ト雖モ差押
 ナ受ケ、物權ヲ負
 擔シ又ハ賃貸シタ
 ルモノヲ損壞又ハ
 傷害シタルトキ
 ハ前三條ノ例ニ依
 ル

第二百六十三條 他
 人ノ信書ヲ隱匿シ
 タル者ハ六月以下

本條ハ新ニ設ケタル所ニシテ自己ノ物ト雖トモ差押ナ
 受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シタルモノヲ他人ノ物ト
 同視スルノ規定ナリ是レ舊法ハ本條ニ掲ケタル場合ヲ
 罪ト爲ササルモ本法ハ之ヲ他人ノ物ニ同シク保護スル
 ノ必要アルヲ認メタルヲ以テ第百十五條及ヒ第百二十
 條第二項ノ規定ト同様ノ規定ヲ設ケル所以ナリ

本條ハ新ニ設ケタル所ニシテ信書隱匿罪ヲ規定セリ
 封緘シタル信書ヲ開披スル罪ハ第百三十三條ニ規定セ
 ルモ同條ノミニテハ信書ノ保護ヲ全フスルコト能ハス

第二百六十二二百六十四條

ノ懲役若クハ禁錮
又ハ五十圓以下ノ
罰金若クハ科料ニ
處ス

第二百六十四條 第

二百五十九條、第
二百六十一條及前
條ノ罪ハ告訴ヲ待
テ之ヲ論ス

故ニ特ニ本條ヲ設ケタリ

本條ハ毀棄罪及ヒ隠匿罪ヲ親告罪トスル規定ナリ
權利義務ニ關スル私文書、建造物、艦船以外ノ物及ヒ
信書ハ多種多様ニシテ其ノ必要アルモノナルヤ否ヤハ
被害者ノ判斷ニ一任スル外ナク被害者ノ必要トセサル
文書ヲ強ヒテ保護スルノ必要ナシ是レ本條ヲ設ケル所
以ナリ

第四編 違警罪

○違警罪ハ多クハ地方ノ情況又ハ或ル時機ニ際シ規
定スヘキモノナルヲ以テ其ノ中拘留又ハ科料ニ處
スヘキ罪トシテ之ヲ他ノ罪ト共ニ其ノ種類ニ從ヒ
各章ニ配列シ他ハ悉ク特別法ニ讓ルコトトセリ

第四百二十五條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ三日以上
十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢
以下ノ科料ニ處ス

- 一 規則ヲ遵守セズシテ火藥其他破裂ス可キ物品
ヲ市街ニ運搬シタル者
- 二 規則ヲ遵守セズシテ火藥其他破裂ス可キ物品
又ハ自ラ火ヲ發ス可キ物品ヲ貯藏シタル者
- 三 官許ヲ得ズシテ煙火ヲ製造シ又ハ販賣シタル
者
- 四 人家稠密ノ場所ニ於テ濫リニ煙火其他火器ヲ
玩ヒタル者
- 五 蒸氣器械其他煙筒火竈ヲ建造修理及ヒ掃除ス
ル規則ニ違背シタル者

違警罪

第四百二五、四二六條

六 官署ノ督促ヲ受ケテ崩壞セントスル家屋牆壁
ノ修理ヲ爲ササル者

七 官許ヲ得ズシテ死屍ヲ解剖シタル者

八 自己ノ所有地内ニ死屍アルコトヲ知テ官署ニ
申告セス又ハ他所ニ移シタル者

九 ハ第二百八條ニ對照

十 密ニ賣淫ヲ爲シ又ハ其媒合容止ヲ爲シタル者

十一 人ノ住居セサル家屋内ニ潜伏シタル者

十二 定リタル住居ナク平常營生ノ産業ナクシテ
諸方ニ徘徊スル者

十三 官許ノ墓地外ニ於テ私ニ埋葬シタル者

十四 ハ第六十九條ニ對照

第四百二十六條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ二日以上
五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢
以下ノ科料ニ處ス

- 一 人家ノ近傍又ハ山林田野ニ於テ濫リニ火ヲ焚
ク者
- 二 水火其他ノ變ニ際シ官吏ヨリ防禦ス可キノ求
メヲ受ケ傍觀シテ之ヲ肯セサル者

- 三 不熟ノ菓物又ハ腐敗シタル飲食物ヲ販賣シタル者
- 四 健康ヲ保護スル爲メ設ケタル規則又ハ傳染病豫防規則ニ違背シタル者
- 五 人ノ通行ス可キ場所ニアル危險ノ井溝其他凹所ニ蓋又ハ防圍ヲ爲ササル者
- 六 路上ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ噬シ又ハ驚逸セシメタル者
- 七 發狂人ノ看守ヲ怠リ路上ニ徘徊セシメタル者
- 八 狂犬猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ路上ニ放チタル者
- 九 ハ第九十二條ニ對照
- 十 墓碑及ヒ路上ノ神佛ヲ毀損シ又ハ汚瀆シタル者
- 十一 神祠佛堂其他公ノ建造物ヲ汚損シタル者
- 十二 ハ第二百三十一條ニ對照
- 第四百二十七條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス
- 一 濫リニ車馬ヲ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

- 二 制止ヲ肯セスシテ人ノ群集シタル場所ニ車馬ヲ牽キタル者
- 三 夜中燈火ナクシテ車馬ヲ疾驅スル者
- 四 木石等ヲ道路ニ堆積シテ防圍ヲ設ケス又ハ標識ノ點燈ヲ怠リタル者
- 五 瓦礫ヲ道路家屋圍圍ニ投擲シタル者
- 六 禽獸ノ死屍ヲ道路ニ棄擲シ又ハ取除カサル者
- 七 汚穢物ヲ道路家屋圍圍ニ投擲シタル者
- 八 警察ノ規則ニ違背シテ工商ノ業ヲ爲シタル者
- 九 醫師穩婆事故ナクシテ急病人ノ招キニ應セサル者
- 十 死亡ノ申告ヲ爲サスシテ埋葬シタル者
- 十一 流言浮説ヲ爲シテ人ヲ誑惑シタル者
- 十二 妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱符呪等ヲ爲シ人ヲ惑ハシテ利ヲ圖ル者
- 十三 私有地外ヘ濫リニ家屋牆壁ヲ設ケ又ハ軒櫺ヲ出シタル者
- 十四 官許ヲ得スシテ路傍又ハ河岸ニ床店等ヲ開

キタル者

- 十五 路上ノ植木市街ノ常燈及ヒ厠場等ヲ毀損シタル者
- 十六 道路橋梁其他ノ場所ニ榜示シタル通行禁止及ヒ指道標ノ類ヲ毀棄汚損シタル者
- 第四百二十八條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス
- 一 官署ヨリ價額ヲ定メタル物品ヲ定價以上ニ販賣シタル者
- 二 渡船橋梁其他ノ場所ニ於テ定價以上ノ通行錢ヲ取リ又ハ故ナク通行ヲ妨ケタル者
- 三 渡船橋梁其他通行錢ヲ拂フ可キ場所ニ於テ其定價ヲ出サスシテ通行シタル者
- 四 路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲シタル者
- 五 官許ヲ得スシテ劇場其他觀物場ヲ開キ及ヒ其規則ニ違背シタル者
- 六 溝渠下水ヲ毀損シ又ハ官署ノ督促ヲ受ケテ溝渠下水ヲ浚ハサル者
- 七 制止ヲ肯セスシテ路傍ニ食物其他ノ商品ヲ羅

列シタル者

- 八 官許ヲ得スシテ獸類ヲ官有地ニ放チ又ハ牧畜シタル者
- 九 身體ニ刺文ヲ爲シ及ヒ之ヲ業トスル者
- 十 他人ノ繫キタル牛馬其他ノ獸類ヲ解放シタル者
- 十一 他人ノ繫キタル舟筏ヲ解放シタル者
- 第四百二十九條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス
- 一 橋梁又ハ堤防ノ害ト爲ル可キ場所ニ舟筏ヲ繫キタル者
- 二 牛馬諸車其他物件ヲ道路ニ横ヘ又ハ木石薪炭等ヲ堆積シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 三 車馬ヲ竝ヘ牽テ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 四 水路ニ於テ舟ヲ竝ヘ通船ノ妨害ヲ爲シタル者
- 五 冰雪塵芥等ヲ路上ニ投棄シタル者
- 六 官署ノ督促ヲ受ケテ道路ノ掃除ヲ爲ササル者
- 七 制止ヲ肯セスシテ路上ニ遊戯ヲ爲シ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

明治四十年四月廿二日印刷
明治四十年四月廿五日發行

著者

實戶深藏

東京市神田區今川小路三丁目六番地

明倫館主 河村正

東京市京橋區宗十郎町十五番地

山口竹二郎

東京市京橋區宗十郎町十五番地

合資會社 東京國文社

東京市麴町區富士見町五丁目九番地

日本法令審查會

東京市神田區今川小路三丁目六番地

明倫館



發行所

一手發賣元



Handwritten signature

● 穴戸深藏氏ノ著作

(但シ雜誌類ヲ除ク)

選新

和 獨 字 彙

十 八 版

本書ハ邦語ヨリ獨逸普通語ヲ檢出シ得ル字書ナリ

獨

和 法 律 辭 典

再 版

本書ハ獨逸法律語ニ邦語ヲ付シ又邦語ヨリ獨逸法律語ヲ索出シ得ル方法ヲ以テ編纂シタルモノナリ

司 法 省 議 類 典 第 一 部

三 版

本書ハ司法大臣ノ認可ヲ得テ戶籍、親族、相續、登記ニ關スル司法省ノ解釋ヲ類集シタルモノナリ

司 法 省 議 類 典 第 二 部

初 版

本書ハ司法大臣ノ認可ヲ得テ刑法、刑事訴訟法其他附屬法令ニ關スル司法省ノ解釋ヲ類集シタルモノナリ

人 事 關 非 訟 事 件 申 請 書 式 類 集

初 版

本書ハ親族、相續ニ關スル非訟事件ノ申請書式ヲ類集シタルモノナリ

工 場 抵 當 法 原 理

再 版

本書ハ工場抵當法ノ立法ノ趣旨ヲ明白ナラシメタルモノナリ

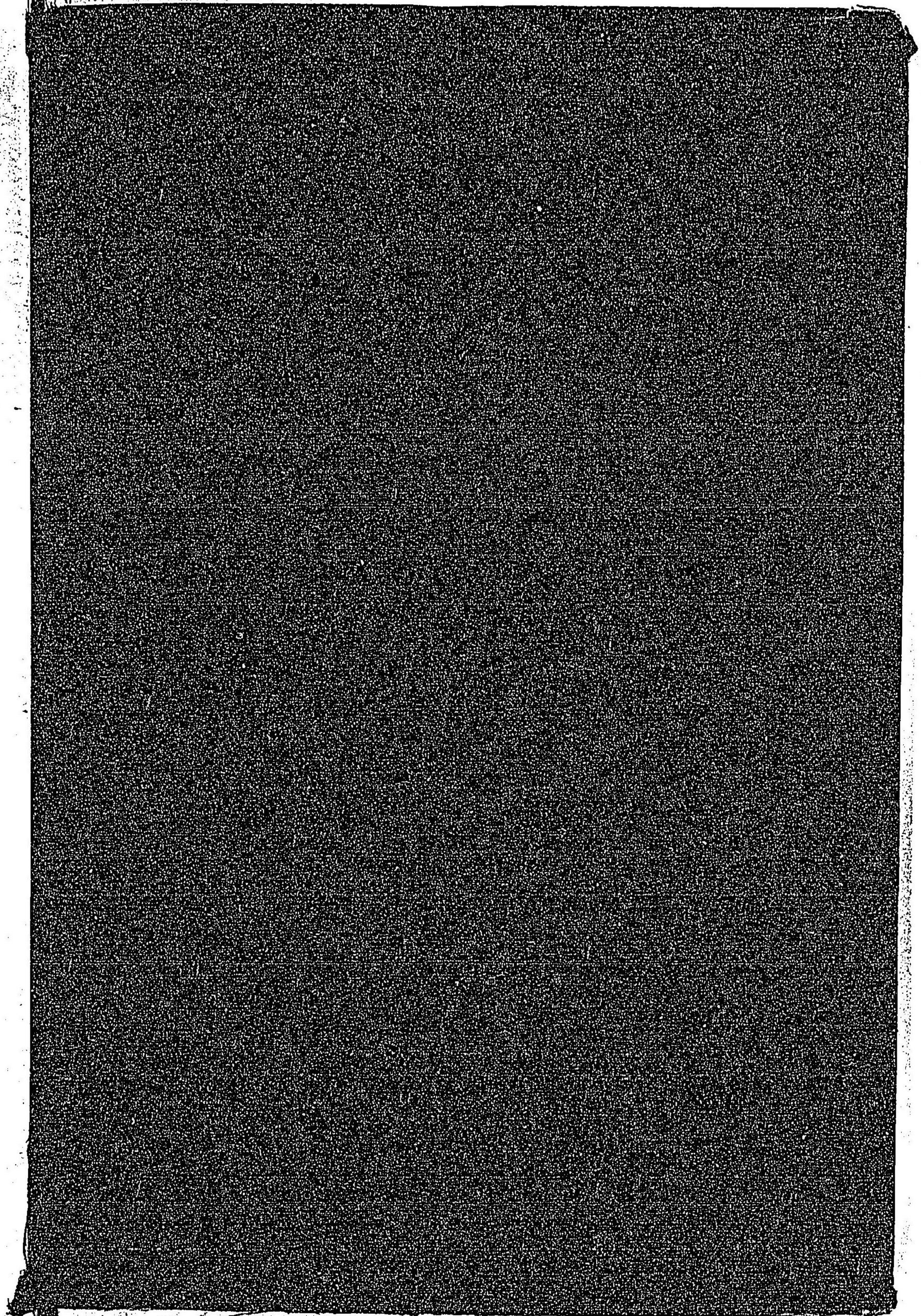
醫 藥 法 規 大 全

再 版

本書ハ明治初年ヨリ三十九年九月三十日マテノ法令中醫、藥、衛生ニ關係アルモノヲ類別蒐集シタルモノナリ

△ 前掲ノ書籍ハ明倫館ニ於テ取次ヲ爲ス ▽

90
225



90
225

036038-000-0

90-225

新刑法实用

六戸 深蔵/著

M40

BBP-0666



